



陸地に押し上げられた漁船(宮城県気仙沼市鹿折)

# 特集 東日本大震災3.11から10年

日本の国土の特徴は細長い弓状で、海岸線は海に陸がせり出し、海が陸に食い込み、小さな平野や河川の扇状地などに都市ができています。この国土に、世界のマグニチュード6以上の地震エネルギーの20%が解放されているようだ。しかも、全世界のたった0.25%ほどしかない地表面積に集中しているのである。台風の北上コースでもあり、災害列島なのだ。災害対策の重要さは言うまでもない。

東日本大震災から10年の時間が過ぎ、この間にスマホが一気に普及した。編集部は災害対応力を高めるデジタル技術の提案に注目した。スーパーコンピュータ「富岳」や量子コンピュータとAIの活用、LINEと対話型チャットボット、遠隔操作や8K・5Gのドローン活用、情報入手のツール、災害映像アーカイブをテーマにレポートする。

テーマのもととなった忘れられない出来事の一つに、大川小学校の校庭にいた児童74名と教職員10名の犠牲がある。2014年3月から始まった遺族による大川小学校津波事故訴訟の仙台高裁・控訴審判決について、研究者として見つめてきた専修大学法学部・飯考行教授に、その意義と遺族の思いを寄稿してもらった。(企画担当:吉井 勇・本誌編集部)



3.11の15時51分に放送された宮城県名取市内を襲う津波の映像